

## 第2編 勉強会・現地視察

### 第1章 河川勉強会

テーマ：利根川水系河川整備計画

埼玉県において、(社)日本河川協会の個人会員で活動している「彩の川研究会」は、去る9月19日(金)埼玉共済会館において、昭和22年のカスリン台風で甚大な被害を被った埼玉県であることから会員の関心が高く、現在検討が進められている、「利根川水系の河川整備計画」について勉強会を開催致しました。

勉強会には台風13号の関東接近等多忙にも係わらず、利根川上流河川事務所からは田所事務所長、酒井副所長、須藤調査課長、また、江戸川河川事務所からは藤井副所長、藤田計画課長、また埼玉県河川課からは大野副課長のご参加を頂きました。

勉強会は星畑調査部長の司会進行で進められ、小林会長の挨拶に続き田所事務所長からもご挨拶を頂き、その後、利根川本川・江戸川さらに中川・綾瀬川につ

いて、現在までの検討経過、各河川の現状と課題、各河川の河川整備の目標について、須藤調査課長及び藤田計画課長よりパワーポイントを使って詳しいご説明を頂きました。

ご説明を頂いた内容について、その一部を以下に紹介します。

平成18年2月14日決定・公表された

「利根川水系河川整備基本方針の概要(治水)」

#### 【基本高水】

・既定計画の基本高水ピーク流量(22,000m<sup>3</sup>/s)を踏襲。

#### 【高水処理計画】

(1) 実現可能性の向上



河川勉強会 会場風景



田代利根川上流河川事務所長のあいさつ

- ・長期計画とはいえ、「極めて困難」と考えられるものは出来るだけ排除。

- ・コスト比較とともに、地域社会への影響も重要なファクター。

(2) 既存ストックの有効活用

- ・各施設の潜在的なポテンシャルを引き出す(現況河道断面を最大限活用する等)。

- ・既存洪水調節施設の拡大整備や連携(ダムの再編等)、現計画で位置づけのない施設(旧江戸川、印旛沼)等の有効活用による効率性のアップ。

(旧江戸川への分派量 0 1,000m<sup>3</sup>/s、印旛沼経由で東京湾に 1,000m<sup>3</sup>/s)

(3) 現河道計画の概ねの尊重

- ・利根川の堤防は長大であり、引堤等の大改修を行うことは「極めて困難」。

- ・被害ポテンシャルの増大に配慮し、現HWLは上げない。

- ・既存の堤防を前提に沿川の地域社会が成り立っていることにも配慮。



利根川河川事務所の須藤調査課長による説明

## 現状と課題

(1) 治水

- ・河道や洪水処理施設の整備は、まだまだ、不十分。

- ・堤防強化対策(首都圏氾濫区域堤防強化対策の早期実現)。

- ・利根川下流部の流下能力の確保

- ・洪水調節施設の整備(上流ダム群や遊水池・調節地)等

(2) 利水

- ・水需要の増大や小雨傾向等から概ね2~3年に一度渇水が発生。

- ・渇水時には瀬切れが発生し河川環境が悪化。

- ・流水の正常な機能を維持する流量の確保。

(3) 河川環境

- ・本川下流部や支川や湖沼の水質改善。

- ・自然環境の保全・再生。

(4) 維持管理

- ・適正な維持管理計画の策定

## 河川整備計画の目標

### (1) 治水

- ・整備期間は概ね30年。
- ・本川と江戸川は概ね1/50年、主要な支川は概ね1/30年の安全度を確保。

### (2) 利水

- ・都市用水及び農業用水等の水需要の安定化を図ると共に流水の正常な機能の維持に必要な水量を確保するための施設整備を目指す。
- ・広域的な水資源施設の統合的な運用により効率的かつ効果的な利用を目指す。また河川流量の変動に対して河川環境の形成を考慮した運用を目指す。

### (3) 河川環境の整備と保全

- ・河川毎に空間管理や水環境管理の目標を定めた上で、順応的な河川環境の管理を目指す。
- ・水質については、関係者と連携し定めた段階目標の達成を目指す。
- ・自然環境の保全については、各地域の自然特性に配慮してその保全・再生を目指す。
- ・人と川とのふれあいの確保については、地域計画等との連携を図り、多様なニーズを反映した河川空間整備を目指す。

### (4) 維持管理

- ・河川の維持管理に関する計画を策定し、河川の監視・評価・改善を一連で行う、リサイクル型維持管理体系の充実を図る。



江戸川河川事務所の藤田計画課長による説明

## 中川・綾瀬川の総合治水対策について

### (1) 総合治水計画における洪水処理分担計画及びその進捗状況

### (2) 総合治水対策の効果

- ・治水施設整備と流域対策の進捗と効果
- ・首都圏外郭放水路の効果
- ・綾瀬川放水路の効果

### (3) 当面の本川河道改修予定について

以上の説明の後、質疑応答へと移りましたが、当日は予定した参加者50名を上回るなどその関心のほどが伺えました。質疑応答は主に整備計画の整備メニューについて多くの質問が寄せられました。その主なものは

- ・堤防強化の優先順位と左右岸バランスについて
- ・印旛沼や旧江戸川への新規洪水分派と管理について
- ・首都圏外郭放水路の綾瀬川までの延伸について
- ・河道管理計画の重要性について 等

ですが、これ以外にも質問が相次ぎ、当初予定した時間を大幅にオーバーするなど熱心な議論が交わされました。

最後に、司会者より今後の進め方として、整備計画の策定の進捗の度合いを見計らい再度勉強会の開催の必要性や、会員各位が利根川水系河川整備計画について十分に理解し、意見等を求められた場合しっかりと意見が言えるようになることを申し合わせて、盛会のうち勉強会は終了いたしました。

(記録 富田 和久)

## 第2章 第1回現地見学会

### 見学会概要

日 時：平成20年10月21日(火)

視察場所：渡良瀬遊水地・雷電神社・新川通りスーパー堤防・鷲宮神社

目 的：利根川の河川整備計画に位置づけられ大きな役割を果たす、埼玉県東部地域の渡良瀬遊水地・新川通りスーパー堤防及び今年度当研究会の調査研究「水防災拠点としての鎮守の森」箇所の現地見学

視察行程：大宮→渡良瀬遊水地→雷電神社 新川通りスーパー堤防→鷲宮神社→大宮

平成20年度1回目の見学会は、利根川上流河川事務所の酒井副所長にお世話になって、首都圏の治水対策に大きく貢献する渡良瀬遊水地及び新川通りスーパー堤防、さらに洪水、大火、地震等の厄除けを含め人々の支持を受けている雷電神社及び鷲宮神社の視察を行いました。新会員4名を含む35名の会員が参加し意義深い見学会となりました。

一行は9時に大宮の鐘塚公園に集合し、秩父鉄道観光バス(株)の大型バスで最初の



利根川河川事務所の渡良瀬出張所で説明を聞く

訪問地である渡良瀬出張所に向かい、途中、小林会長から挨拶と今回の視察にかかわる事前レクがあり、横倉幹事長から行程説明がありました。

### 渡良瀬遊水地

現地視察に先立って、渡良瀬出張所会議室において渡良瀬遊水地の島田出張所長から遊水地事業の概要及び現況説明があり、その後所員の案内で現場視察を行いました。

渡良瀬遊水地は埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県の4県にまたがる面積約33平方キロメートル、周囲の長さ30キロメートル、谷中湖面積45平方キロメートル、谷中湖の貯水量2,640万立方メートルで、治水容量17,180万立方メートルの日本最大の遊水地であり、昭和37年度に工事着手し、現在3つの洪水調節地と第1調節地の一部に多目的調節池が完成しています。第1調節池の中にある中ノ島の展望台から広大な景観を見渡し、葦原浄化箇所を視察しました。

昼食のお弁当を遊水地内の園地でおもいおもいの場所に集まり、ピクニック気分でもいただいたのは大変良い思い出になりました。

### 雷電神社

雷電神社は群馬県邑楽郡板倉町にあり、関東地方に数多い雷電様の総本宮で歴史がたいへんに古く1000年をさらにさかのぼるとのこと。推古天皇、聖徳太子が天の声を聞いて、祠を設け点の神を祭ったのが始まりで、初詣、節分、雷電大祭等祭事においては大変な人出で賑わうとのこと。

雷よけ、雨乞いで有名で、鶴ヶ島の雨乞い祭りの元社といわれています。



葦原浄化施設の見学



澄み切った青空の下、渡瀬遊水地の園地でおいしい弁当を広げた



雷電神社本殿 お祭りでもないのに多くの方が詣でる

### 新川通りスーパー堤防

新川通りは昭和 22 年のカスリーン台風で破堤した箇所であり、平成 9 年から平成 17 年度にかけ、延長約 400m、幅約 340m、盛り土量約 90 万 m<sup>3</sup>のスーパー堤防が築造されました。

現在、スーパー堤防上に大利根出張所が完成し、現在河川防災ステーションと防災センターが施工中です。

記念碑の前で、利根川上流河川事務所の田所所長からご挨拶と事業の概要説明をしていただきました。また、先日新聞発表のあった「利根川強化堤防斜面の森林化事業」の現場を案内していただき、河川事業が近年特に環境に力を注いでいる状況を学習できました。



記念碑の前で利根上の所長から事業の概要を聞く

### 鷲宮神社

北葛飾郡鷲宮町にあり、関東最古の大神社でお酉様の本社とされています。別名を土師の宮（はにしのみや）ともいわれています。崇神天皇の時代に土師氏が当地に移住した際に祭ったのが起源ともされ、「はにしのみや」が訛って「わしのみや」になったといわれています。中世以降は本社周辺の地域が將軍領となり関東の総社、関東鎮護の神社として東国武家の崇敬を受けたとのこと。

神社裏手の「鎮守の森」は静かなたたずまいで、心落ち着く散策路になっていました。

最近では「ラキスタ」の聖地として、通称「オタク」をはじめ多くの若者が参拝におとずれるとのことです。視察時にも県外ナンバーの車両が数台駐車していました。



寛保の洪水で利根川が大被害を受け、寛保 3 年(1743 年)にお手伝い普請で長州毛利公が利根川堤防の修築を完工したことを記録した記念碑の前で小林会長が研究成果を説明



今回も秩父観光のバス、安全運転ご苦労様でした

(記録 濱田 久典)

## 第3章 第2回現地見学会

### 見学会概要

日 時：平成21年3月12日（木）

視察場所：越谷レイクタウン、綾瀬川・芝川等浄化導水事業、川口地区スーパー堤防

目 的：河川調節池と新市街地整備を一体的に行った越谷レイクタウン、大規模河川事業に位置づけられ大きな役割を果たす綾瀬川・芝川等浄化導水事業、川口スーパー堤防及び今年度当研究会の調査研究「水防災拠点としての鎮守の森」箇所の現地見学

視察行程：大宮→越谷レイクタウン→大聖寺 綾瀬川・芝川等浄化導水事業→川口地区スーパー堤防→大宮

平成平成20年3月12日（木）、彩の川研究会会員40名の参加を得て、第2回の見学会が行われました。当日は快晴でしたが冬将軍の南下で、3月にしては風が冷い研修となりました。

大宮駅西口の鐘塚公園に集合（8：45）し、秩父観光バスで首都高から外環に入り、東埼玉道路より越谷レイクタウンに10時少し前に到着しました。説明会場がイオンビルのUR都市機構の会議室であるので、10時にならないとオープンせず、10時まで店舗の前でしばらく待機しました。



小林会長のあいさつ



横倉幹事長より行程説明



レイクタウンに到着

### 大相模調節池

3階の会議室で、初めに越谷県土整備事務所の小倉所長より、レイクタウンの象徴ともいべき大相模調節池の説明を受けました。

設置の目的は元荒川と中川流域の洪水被害を軽減するため、元荒川の洪水を調節池に導水し、ピークカットしたのち中川に放流するものであり、新市街地整備と一体的に整備を行っています。

元荒川からの導水路は地下13.8mの深さに約860m、中川に排水する排水路は地下11mの深さに約660mの排水路を作り、中川に排水する構造になっています。近年では水路を地下に築造することが特別なことでなく採用されているようです。



大相模調節池北池



北池の浮き棧橋



レイクタウン内の調節池

調節池の面積は、39.5ヘクタールで北池の湖面の広さは東西が約570m、南北に470mあり、全体面積では上野の不忍池の約3倍とのこと。容量は120万トンで最大水深が5m、通常は1.0～1.5mとなっています。

そのほか、池の水質を保つため中川潮位の上下動を利用して池に流れを作り、水質保全や水面利用が気持よくできるよう配慮されています。



排水路呑口



排水路中川吐口



排水路中川合流点

### 越谷レイクタウン

次に越谷レイクタウン事業を進めているUR都市機構の清水事業課長、田中工事課長より説明を聞きました。

越谷レイクタウンの名前が示すように、水とともに暮らす親水文化創造都市をコンセプトに計画されたもので、環境や安らぎに重点を置いたものです。特に広大な水面と水際を活用したライフスタイルの提供が特徴で、計画面積225.6ha、東西約1.4km、南北約1.5kmのほぼ矩形に近いエリアで、水田の中に忽然と出現した新都



イオンレイクタウン街



駅前広場北池方向



街路の歩道部



市となっています。地権者数 801 名、既存家屋 55 戸、減歩率は 40.6%で、駅前も十分な公共スペースが確保されています。

説明の後、見学に向かいましたが、とにかく広く、徒歩では到底全体を見るのは困難で、この街にふさわしいのは自転車ではないかと思われま

す。大和ハウスが建設した集合住宅は、屋上に太陽光温水パネルが全棟に配置され、省エネルギーの対策が施されており、そのほか駅前広場、イオンの店舗にもソーラーパネル、風力発電などの省エネルギー節電設備が導入されています。環境省の「街区まるごとCO<sub>2</sub>20%削減事業」に認定されているとのこと

です。ここに住むこと自体がステイタスになるのかなと感じる一方、5年後、10年後にどのように成熟していくのか気になるところでもあります。

予定では、昼食は大相模調節地の水辺でとのことでありましたが、当日は冷たい風が吹いて、バスの中での昼食となり、少し残念というところでした。



見学に向かう参加者



レイクタウン内戸建て住宅



戸建て住宅の前庭

## 大聖寺

昼食後、次の見学先である「大聖寺」に向かいました。ここは彩の川研究会の「鎮守の森調査」で、元荒川の洪水時にこの大聖寺に避難したとの記録がのこっているお寺です。境内で小林会長より周辺住民や家畜の避難場所になったという説明を受けました。

地理的には、元荒川の右岸河畔微高地であり、周辺の低地部より2mほど高くなっているようです。本尊は不動明王であり、大相模不動尊「真大山大聖寺」と呼ばれています。パンフレットの説明によると750年の開山で、1591年、この寺に宿泊した徳川家康から大聖寺の寺号を受けた歴史のあるお寺で、特に山門が大きく、その歴史が感じられる市の指定文化財にもなっています。

1804年に再建されたとされますが、それにしても再建から200年以上たっているわけで、コンクリートや鉄の建物であったらどうなっているのかなと考えさせられます。



小林会長の大聖寺の説明



大聖寺の山門



大聖寺本道の参道

### 綾瀬川・芝川等浄化導水事業

次の見学箇所は、荒川下流河川事務所の綾瀬川・芝川等浄化導水事業と川口スーパー堤防です。事務所の会議室にて丸山工務課長、斉藤施設課長より説明を受けました。

綾瀬川・芝川等浄化導水事業は、綾瀬川、芝川流域の水質改善と水量の確保を目的に、荒川の水を綾瀬川、伝右川、毛長川、芝川の上流部に放流し、本来の川らしさを復活させる事業です。

管径1.2m、延長約12km(導水管総延長約16km)の導水管を埼玉高速鉄道シールドの内部に設置し、コスト縮減、工期の短縮を図ったもので、全国初の地下鉄との共同事業とのことです。導水機場は、新荒川大橋の下流左岸に設置しており、導水管理を行っています。荒川の水質を常に監視し、きれいな水を上流に送る役割を担っています。

また、菖蒲川、笹目川、上戸田川を対象とした浄化導水事業も実施されており、笹目川堤防沿いに延長約4.8km、管径1.2～0.6mの導水管を設置し、上流部で放流をしています。さいたま県土勤務のとき、菖蒲川で大きな魚が酸欠で大量に浮いてしまい、その処理に苦労したことが思い出されます。



会議室で説明を聞く



取水する荒川



浄化導水の説明

### 川口地区スーパー堤防

また、この新荒川大橋の上流左岸では、川口地区スーパー堤防の整備が進んでいます。このほかに荒川沿いでは15地区のスーパー堤防が整備されており、9か所、2.26kmが完成し、6か所、6.25kmが整備中となっています。

この川口地区では築堤幅が280m程度になるとのことで、一見した感じでは区画整理事業のような感じを受けます。施工は築堤したその上に建物を移設完了し、その跡地に盛土をしていくという、玉突きのように次々と移設と盛土を繰り返して築堤しています。



導水管理施設の説明



スーパー堤防の見学



堤防から見た川口エリア

### まとめ

見学を通して、治水事業のなかで大きく環境への配慮が進んできた事を実感した見学会でした。

最後に参加者全員で記念写真を撮って第2回の研修を終えました。企画していただいた彩の川役員の皆様、説明いただいた各事務所の皆さまに感謝を申し上げ報告といたします。



参加者全員で記念撮影

(記録 飯島 敏之)